

総括研究報告書

1. 研究開発課題名： アフリカの NTD 対策に資する大陸的監視網に向けたイノベーティブ・ネットワークの構築：一括・同時診断技術を基軸とした展開
2. 研究開発代表者： 熱帯医学研究所 教授 金子 聡
3. 相手国研究代表者： Malitu Mwau (所属 ケニア中央医学研究所 (ケニア共和国))
4. 研究開発の成果

研究開発項目名 1) 「地域最適化を目指した一括診断抗原開発と評価」

中央アフリカにおいて問題となっているフィラリア症 (バンクロフト糸状虫、オンコセルカ、ロア糸状虫、マンソネラ糸状虫) の識別のための一括抗体測定系開発に関して、情報収集とコンゴ民主共和国との検討を開始し、開発研究計画書の作成、キンシャサ大学との連携に関する協議を開始した。開発には、患者血清と対象者の血清入手が必要であることから、コンゴ民主共和国の流行地域における行政との連絡を取り、開発のための候補抗原に関する抗原精製の作業も開始した。

研究開発項目名 2) 「サーベイランス・システムの体系化と開発並びに普及」

本事業に参加するケニア (ケニア中央医学研究所)、エジプト (エジプト-日本科学技術大学)、ナイジェリア (ナイジェリア大学)、コンゴ民主共和国 (キンシャサ大学) の各機関との共同研究に関する覚え書きを取り交わし、今後の展開についての基盤を整備し、パイロット調査に関する検討を開始した。地域を基盤とした調査システムの開発に関しては、東京大学空間情報科学研究センターとともに衛星画像を用いた自動家屋識別システムの開発に関して、検討を開始した。情報共有のための仕組みに関しては、ウェブサイトを立て上げ、書き込み等も可能な情報共有基盤を整備した (<http://panafrican-ntd.org>)。

研究開発項目名 3) 「NTDs の一括地域診断に関するアフリカン・ネットワークの構築とその応用」

本事業をアフリカ間で繋ぐ **PanAfrican Network** の事務局を新規にケニア中央医学研究所内に設置した。今後、事務局機能を向上させ、各国との連携を図ってゆく。次年度は、ケニアにおいて、日本政府主催の第 6 回アフリカ開発会議 (TICAD) が開催されることから、その準備活動についても開始した。

研究開発項目名 4) 総務班：世界への情報発信・次段階への準備

世界への情報発信・次段階への準備については、平成 26 年 1 月 15 日、本事業に関するシンポジウムをナイロビにおいて開催、アフリカ各国からの参加者を含め、総勢 200 名の参加を数え、本事業に関する情報共有、今後の展開についての検討する場を得た。上記記載の通り、ウェブサイトを立て上げ、情報共有基盤も整備した。国際機関との協力支援獲得に関する活動については、次年度のシンポジウム等により連携を開始する。また、データ観測等の連携については、関係者との議論を開始した。